

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人研修や職場内研修、職員会議、ユニット会議、リーダー会議にて実際のケアにどのように活かしていくか、話し合いながら取り組んでいる。	法人の理念を基本としている。月1回全員参加の職員会で年度末にはホームの一年の目標を振り返り、次年度の目標を決め事務所に掲げ、管理者と職員は時折職員会議でも確認している。年度初めの「森の里だより」にも一年の目標を明記し家族にも伝える予定である。理念や目標にそぐわない言動や対応が職員に見受けられた時には、その都度管理者が声掛けをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアさんや小学校、保育園児との交流、地域の催し物に参加したり関連施設のご利用者様と交流する機会を設けている。	隣接の特別養護老人ホームと合わせ法人として区費を払い自治会に加入している。回覧板はないが地区の役員から行事案内があり、敬老会・お祭り・どんど焼きなどに参加している。特養では、年3回、その都度テーマを決め介護予防教室が開かれている。職員と利用者、地区の方など40~50名の参加があり、体操・腰痛予防・口腔ケアなども行われている。小学校の運動会見学、2つの保育園との交流も行われている。笑いヨガ、三味線、民謡、ギター等のボランティアの来訪が毎月あり利用者は楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、ボランティアさん来所時に触れ合う機会を設け利用者様への支援方法を見てもらう。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。会議の時に現状報告を行い、区長さん等から地域の催し物や活動しているボランティアを教えていただいたり、要望等意見をいただき活動に繋げるよう取り組んでいる。	利用者代表、家族代表、2地区の区長・前区長、民生児童委員、市高齢者福祉課職員、ホーム管理者の参加により2ヶ月に1回開かれている。ホームからは利用者の現状や事故・ヒヤリハットの報告を行い、意見を頂きサービスの向上に活かしている。台風の被害や防災訓練の情報交換なども行われ、地区との防災協定も結ばれている。議事録は家族にも見ていただけるようになっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じ、現状を知って頂き、アドバイス、意見等をいただいで連携を図っている。また、月に1回、千曲市から安心介護相談員が来所しご利用者様と交流している。	市からの依頼により被災されたホームの利用者の受け入れが行われた。市から派遣の安心(介護)相談員が月1回来訪され利用者と一緒に体操されたり馴染みの関係づくりをされ意見や要望をお聞きし、終了時には報告を受け改善に繋げている。介護認定更新時には家族から依頼があれば代行申請もしている。訪問調査時には立ち会う家族もあるが、職員も立会い日頃の様子をお伝えしている。	

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は周りが田畑や山の為、離設時の危険を防ぐ為に施錠している。気分転換の為、散歩などで外を歩いていただく時は、職員が同行している。	法人として「虐待防止、身体拘束委員会」が2ヶ月に1回開かれホームからも委員が参加している。職員会で委員から報告があり身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ホームの敷地が広く、前には山があるため安全確保のため玄関は施錠している。外出傾向の強い方については様子を見ながら一緒に散歩などで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会の設置や職員研修を通じ身体だけでなく、言葉の虐待についても、注意するよう、職員同士意識しながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修にて、制度の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前説明時に、疑問点等を伺いながら説明している不明な点は随時聞いていただくよう案内している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に匿名で記入いただける意見箱を用意してある。面会時に過ごされている様子をお伝えし要望を受けて対応方法を改善したりそれについての話し合いを行っている。	介護度も平均1.8で殆どの利用者は意見や要望を伝えることが出来る。若干名の方は様子を見ながら汲み取り要望に沿えるよう支援している。家族の面会は週3~4回の方もいるが、少なくとも月1回の受診時には付き添いのため来訪している。遠方の家族で面会の事前連絡があり、長時間一緒に過ごし利用者と一緒に食事をされる方もいる。敬老会は家族会も兼ねており、三分の二の家族が参加され、職員も個々に声掛けし意見や要望をお聞きしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ユニット会議にて意見や提案を聞いて取り入れたりし、改善するなどしている。	月1回全員参加により職員会議とユニット会議を開き意見交換しサービスの向上に努めている。内部研修も行い統一したケアに取り組んでいる。年1回、職員の意向調査を行い、施設長との面談もあり、意見、要望、仕事への取り組みなどについて話している。職員の意見箱も設置され、意見があった時には管理者等が対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が年1回職員の意見、要望や仕事への取り組みを聞き取り人事考課へ反映している。個人の事情に応じ希望を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修はもちろん外部講師を招き、研修を行なっている。外部研修の情報を収集し、今後参加を勧めていく。		

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加して、ネットワークづくりをしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時に生活歴等の情報、習慣などを伺い入所後の生活が自分らしく安全に過ごせるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅での様子、援助してきたこと、困っていることなどを聞き取り、ご家族に経過報告をし、家族の想いを支援に取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状況やケアマネージャーからの情報から必要なサービスを選択できるよう相談させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で出来る事、大切にされていること、得意な事を見つけ、それらを教えていただくことで、自信を持って生活していただき、支え合える関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人が安心して過ごせるように、ご家族の面会時にはご本人の様子や思いを伝えたり、ご家族の要望を聞き取り生活に活かすよう努めている。また、状態の変化等あった場合には電話連絡をし状況の説明をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、友人、近所の方などの訪問があり来所時には気軽に面会していただけるように声掛けしている。長い時間過ごしたい方には面会者の食事を用意し一緒に食べていただいている。また馴染みの場所に外出する機会も設けている。	隣接の特別養護老人ホームにデイサービスで一緒だった方の面会に行くこともある。友人や家族からホームに電話があり話をされている方もいる。また、携帯電話も数名の方が持っており、家族中心に連絡を取り合っている。5月には地区の敬老会に参加し交流している。年賀状を出す方、頂く方もおり、馴染みの関係が継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要に応じて職員が間に入りながら、ご利用者様同士が交流し、親しくできるように努めている。		

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次のサービス利用への移行まで他事業所と連絡調整を行い、本人ご家族共不安にならないようお手伝いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの希望や意向を確認している。意思疎通のできない方はご家族に確認している。知り得た情報は職員間で共有しサービスに取り込むようにしている。	殆どの利用者が希望や意向を伝えることが出来る。基本的に契約時にお聞きした生活歴を基に、やりたい事、食べたい物、飲みたい物、日々どう過ごしたいのかなどをお聞きし希望に沿って過ごして頂けるようにしている。テレビ鑑賞、ゲーム、リハビリ体操、早口言葉、たし算、ひき算などを取り入れ、出来ることの継続にも取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所する前の暮らしをご本人、ご家族、担当ケアマネージャーから情報を収集し、入居後もご本人ご家族等に聞きながら、馴染みの生活が継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の生活習慣を把握したり、表情などからご本人の心理状態を把握し、興味のある事柄等観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護記録や身体状況等生活において変化があった場合にカンファレンスを行い計画を作成している。	長期目標も短期目標も基本的に3ヶ月に1回計画作成担当者がアセスメントとモニタリングを行い、職員が1～2名の利用者を担当していることから担当職員に聞き、月1回全員参加のユニット会議でも意見を聞いている。変化が生じた時にはその都度見直している。家族には面会時に確認したり、サービス担当者会議に参加して頂き意見をお聞きし計画への同意も頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化やその時の気づきなど、細かく記録し、情報を共有している。引継ぎまえには記録を確認し、変化については話し合いをしてケアの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の家族構成や関わっている方の年齢などを考慮し受診の付き添いや送迎などこちらで支援させていただいたり、その時々ニーズに対応している。		

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域の方に情報をいただいたり、より多くのボランティアさんに来所いただけるよう働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのご本人が信頼を寄せているかかりつけ医に継続して受診している。かかりつけ医を持たない方は近くの往診可能な医師を紹介している。訪問歯科医師もご利用いただいている。	往診の協力医もあるが、殆どの利用者は利用前からのかかりつけ医を主治医とし、受診は家族対応としている。12月から看護職員が常駐しており、適切な医療への支援が行われるようになった。訪問歯科についても希望に応じて往診していただき、口腔ケアの助言も頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	近くにある系列施設の看護師に迷った時や緊急時など対応方法を相談したり、助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を提供し、退院後の情報提供がある時には、同席させていただき、今後についてのご家族の希望を聞き相談させていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に今の状況を説明し、今後についての相談をさせていただいている。事業所で何ができるか、職員間での話し合いもやっている。	法人としての看取りの指針はあるが、ホームとして重度化した場合には法人の特別養護老人ホームへの住み替えを支援し、看取りの経験はない。契約時に家族からの希望もあり、今後ホーム内での看取りも検討していく方向である。看護師も常駐しており、状態の変化に応じて医師との連携を取り、家族の希望に沿った支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修にて、導入したAEDの研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は日中と夜間帯について行い、職員は自主的に行動できるように訓練している。訓練の協力を区長、自衛防衛団の方にもお願いしている。	6月は防火訓練、9月は消防署参加の下消火訓練を行い、水消火器、誘導訓練も年2回実施されている。6月には職員にも不意打ちで訓練を行ったが全員避難出来たという。台風19号の際にはホームには被害がなかったが、他での災害を教訓に、家族との連絡が密にとれるかなど、今後検討していく予定である。地区との防災協定書も結ばれている。ホームの敷地隣には、温泉プールの跡地がありプールの後利用として温泉水が入れ替わる構造で貯水槽として非常時に備えている。停電に備え隣接の特別養護老人ホームに発電機が来年設置されることになっている。備蓄として食料品、介護用品、ポータブルトイレなどが用意されている。	

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の特性を今後も生かし個々を大切にしながら、尊厳を保持した関わりを心掛けている。	利用契約時に家族や友人と馴染んでいる呼び方をお聞きしている。基本的には苗字を「さん」でお呼びしている。礼節委員会が中心となり馴れ合いにならないよう言葉使いには気を付けている。居室入室時にはノックして「失礼します」と声掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択、自己決定の場面を設け思いを聞き出すよう努めている。日常生活の中で思いや気持ちを引き出せるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	画一的な対応ではなく、その方のペースに合わせ柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月1回理容師にきていただき、ご本人の希望に沿った髪形にしている。外出時などは、本人の希望に合わせた好みの服に着替えていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様とおやつを手作りしたり、希望の献立や行事食、郷土食も取り入れている。利用者様と一緒に盛り付けや食器洗いも行っている。	殆どの利用者は自力で食事ができる。食形態は状態に合わせて刻み、おかゆなど提供されている。食事量に変化が生じた時には食事チェック表に3食とおやつ2回、水分摂取量などを記入し支援している。好きな物、嫌いなものは契約時にお聞きし好みの食事で楽しめるよう工夫をしている。主食、副菜は今は隣接の特別養護老人ホームより運ばれているが、力量に合わせて盛り付け、配膳、下膳など職員と一緒にやっている。おやつとして馴染みのこねつけやホットケーキなどを職員と一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェックや水分チェックをし摂取量が少ない方は補うようにしている。飲み込みづらい方には、トロミを使用したり、嗜好にも合うようにしてる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には声掛けをし、口腔ケアを行っていただいている。必要に応じて職員が介助している。		

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様全員がトイレにて排泄している。1人ひとりの排泄パターンを知りその方に合わせた対応を行なっている。	全介助は若干名で殆どの利用者は見守りなど一部介助である。布パンツとリハビリパンツが若干名ずつで、多くの方がリハビリパンツとパットへ併用である。排泄一覧表に個々の対応の仕方、チェック項目が細かく書かれており、統一した支援に取り組んでいる。排便チェック表も作られている。夜間のみポータブルトイレを利用される方は四分の一弱で、日中も希望で利用している方もいる。ケース記録にトイレチェック項目があり、様子を見ながらさりげなく声掛けし、なるべくトイレで排泄することを大切にしている。排泄係が月1回パットの大きさなど利用する種類を検討し費用の削減に心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、水分摂取量に気を配り、オリゴ糖、乳製品、甘酒にて自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様の体調や気持ちに合わせて入浴できるようにしている。また季節よってりんご湯、ゆず湯、入浴剤なども入れ楽しんでいただいている。	全員が一部介助である。浴室は広く3つの浴槽が設置され、それぞれカーテンで仕切られている。2つの浴槽にはギャッチ式のリフト浴が備わっている。週2回の入浴を基本とし、午前と午後希望により30分から1時間気持ちよく入浴出来るよう支援している。回数も希望があればいつでも入浴出来るようになっている。拒む場合には声掛けの時間や職員を変え対応している。季節感を大切に菫湯・ゆず湯・りんご湯・入浴剤などで楽しんでいただいている。家族と日帰り温泉に行かれる方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様には自由に好きな時に好みの場所で休んでいただいている。眠れない方にはじっくり話を聴き、安心して休んでいただけるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服一覧で確認している。また誤薬、投薬漏れがないようダブルチェックを行っている。内服前、内服後も職員が声を掛け合って確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の役割や日課を一人ひとり作り張り合いのある生活が送れるように支援している。		

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせて散歩をして頂いている。またご利用者様の希望により野球観戦を職員と行かれ喜ばれていた。	自力歩行の方が四分の一、杖・シルバーカー利用の方が三分の一、車いすの方が若干名という状況となっている。初詣、どんど焼き、杏の花見、桜の花見、ジャーマンアイリスの見学ドライブ、小学校の運動会、神社の菊花展、紅葉狩りなど、出来る限り外出出来るよう支援している。天気の良い日には広い庭を散歩している。年3回の介護教室にも参加し地区の方とも交流している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を預かり管理させていただいている方はいません。買い物の際は事業所で立て替えさせていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある時はご家族や友人と電話で通話できるように支援している。また年賀状はご家族に宛てたものをご利用者様と一緒に作成している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間、くつろぎスペースは広く設けてありご利用者様は自由に行き来している。掲示物は季節を感じられるように気を配っている。	市内を一望できる小高い場所で杏で有名な地区でもあり、居室やホームの広い庭からも杏の花見が出来る。浴室も広く、3つの浴槽が設置されている。廊下やリビングも広く、日光浴や読書・テレビ観戦など自由に過ごせる場所も用意されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれお話しをしたり、景色を眺めたり、思い思いの場所で過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけご本人の馴染みのある物、大切にしている物を持ち込んでいただいている。	居室は広々としており、馴染みの家具やお仏壇、テレビなど思い思いに自由に持ち込まれている。ハンガーラックにはお気に入りの洋服が沢山掛けられている。家族や幼いころの思い出の写真など自由に飾られ居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室等場所が分りやすい様にしている。居室内も不安や混乱を感じさせず日々の生活が送れるよう環境整備に取り組んでいる。		